新刊紹介


シンポジウムには28ヶ国から154名が出席したが, そのうち地中海フランスが全体の1/4, その他の西欧諸国が1/2を占めた。日本からは的場保望 (秋田大), 松丸国照 (埼玉大), 北里洋 (静岡大), 長谷川四郎 (東北大) が出席した。講演は一つの会場で行われ, その数は招待・個人講演を合わせて78題であった。また講演のほか, 数多くの Nummulites 化石の展示, 種の同定に便利なデータベースシステムの紹介, 数種類のポスターセッションが行われた。さらに招待講演の一つとして, 大形有孔虫の殻構造や生態に関する映写が上映された。

期間中, 膜着質有孔虫に関する夜間小集会がもたられたほか, 各種のパーソナリティが催された。さらに, 会期終了後にバスク海岸 (下部 Senonian～姫新統) およびボーポールド (Aquitanian・Burdigalian) の模式地・食腐ワイン Chateau d'Yquem の巡検があった。本 BOOK BENTHOS '83 にはシンポジウム発表者のものも含む90編の論文が収録されている。そのうち原著論文は66編で, 残りは要旨のみである。原著論文にはカラー写真を含む数多くの図版が掲載されている。時代は古生代より現世にわたっているが, 比較的多いのは白亜紀 (21編), 古第三紀 (17), 第四紀～現世 (12) である（数字には多少の重複がある。以下も同様）。地域的には全世界にまたがるが, 西南欧州が20, 14編とかかり多く, 欧州、他都は7編である。内容別では, 生態・古生態 (37), 化石層序 (35), 新種の記載を含む分類学的な論文 (27) などが多数を占める。さらに, 大形有孔虫に関するものは28編にのぼり, 欧州においてその研究が盛んなことを物語っている。

表紙は表・裏とも期間中に上映された映画のチャート写真である。表はハワイ産 Heterostegina depressa の頭殻・微球 2 型の生体 (会議のシンポリマークにもなった), 裏はハワイの潮窪の藻場における大型有孔虫の生態の写真で, ともに鮮明で非常に美しいものである。

なお, 記述の第3回シンポジウムは1986年にスイスのジェネベーブで開催された予定である。

購入申込先:
Elf Aquitaine, Documentation-Edition Centre Micoula, 64018 Pau, France
（長谷川四郎）